

施策	61	地域資源の発見・資産化	政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり
施策主管課	生涯学習・スポーツ課	課長名	馬場保之	内線	3740
政策担当部長名	社会教育担当参事 松下 徹				
施策関係課名	歴史研究所、公民館、美術博物館、図書館、環境課				
重点施策	関連計画	飯田市教育振興基本計画、地育力向上連携システム推進計画、飯田市歴史研究所第3期中期計画「伊那谷の自然と文化」をテーマとした取組み方針			

1 施策の目的

目的	対象	①地域資源(地域にある自然・文化・歴史)②市民
	意図	①見出す②価値を顕在化させる③認知度を高める

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
① 存在が確認された地域資源の数(累計)	件	2,722	2,964	3,035	3,168	3,809	4,032	4,243		
② 住民人口	人	105,335	104,728	103,947	103,105	102,446	101,743	100,957		
成果指標	単位	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理										
① 価値が見出された地域資源の数(累計)	件	1,599	1,658	1,679	1,770	1,864	2,021	2,300	1,700	◎
② 活用できる状態の整った地域資産の数(累計)	件	580	618	647	670	679	683	704	700	◎
③ 地域資産を知っている市民の割合	%	41.8	45.6	44.9	44.5	45.2	45	40.7	45.0	△

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	24年度	25年度	26年度	27年度	実績値 28年度	目標値 28年度	指標の 傾向
行政	市(国・県) ①調査研究する。 ②指定・認定・登録する。 ③情報を収集・整理・発信する。	①③調査研究を行った地域資源の数(社会教育機関の実績を生涯学習・スポーツ課で集計、累積件数)	① 1,679	1,770	1,864	2,021	2,030	1,700	◎
		②指定等が行われた文化財の件数(生涯学習・スポーツ課で把握、累計件数)	② 167	169	174	175	182	190	◎
		③							
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項(後期5箇年)						
市民等	①調査研究する。 ②情報を提供・発信する。	①市民によって見出された地域資源の数 ②発見情報の提供・発信件数	伊那谷研究団体協議会(伊那谷学の研究活動を多様な分野で行っている16団体が加盟)から、伊那谷学のとらえ方と今後のあり方についての考え方が打ち出され、この中で会員が伊那谷学推進の主体者となり、研究成果を会誌・会報等に掲載する等で広く情報発信し共有化していく方針が示された。						

役割の発揮状況

後期(5箇年)	行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果	<ul style="list-style-type: none"> 伊那谷研究団体連絡協議会との情報・意見交換を重ねる中で、伊那谷研究団体連絡協議会では24年度に伊那谷学のとらえと今後のあり方についての方針を、市教育委員会では25年度に伊那谷の自然と文化をテーマとした今後の取組み方針をまとめ、相互に連携・協働できる取組みを開始した。 各社会教育関係施設機関においては、多様な市民研究団体と協働して地域資源の発見・資産化を進めてきており、こうした取組み形態は飯田方式とも言えるものである。
	多様な主体の協働を推進していくための課題	<ul style="list-style-type: none"> 伊那谷研究団体連絡協議会を構成する各組織では、既存会員の高齢化や新規会員の確保の困難性から会員減少が進んでおり、今後の活動の担い手となる人材の発掘、育成が大きな課題となっている。長期的な視野からみた場合、このことが地域資源の発見・資産化にも大きな影響を来すことが懸念される。

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

<p>この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源・資産は、当地域の魅力形づく重要な要素であり、リニア時代にはその重要性がますます増してくるので、さらなる取組みを願いたい。個々の文化財のみならず、その周辺の景観の保全育成にも取り組んでほしい。地域資産の保管・公開施設の充実を求める。平和資料の発見・資産化・保存継承の取組みについても確実に進められたい。(社会教育委員会) ・菱田春草作品を中心とした美術品の収集・購入を進めてほしい。(基本構想推進委員)(美博協議会) ・自然分野の調査研究は長期的な調査活動計画の基に進める必要がある。考古学の対象年代は近世以降にまで広がり、科学的で高度な調査方法も普及していることも踏まえた資料の整理及び調査研究を進め、発掘や研究成果を明確に伝えられるようにする必要がある。(美博評議員会) ・区単位で重要な歴史資料が保管されている場合が多く、歴史研究所に相談のあった場合は保存されるが、そうでないケースでは散逸が懸念されるため、長期的観点からの保存指導が必要である。(歴史協議会)
<p>施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源・資産は、地域の個性や魅力を形作る重要な要素であり、貴重な財産であるという市民意識が一般化してきている。 ・リニア時代に向けて、守るべきもの、活かすべきものとして磨きをかけることで、小さな世界都市の魅力形づくる資源・資産にもなっている。 ・その一方で、コミュニティ機能の低下や、所有管理者の高齢化、世代交代による地域資源・資産の維持管理の困難性や、リニア時代に向けた諸開発の増加により、貴重な地域資源の消失も懸念される。 ・リニア関連工事が具体化する中で、数多くの遺跡等の発掘調査を行う必要が生じることになるが、出土資料の調査整理及び保存に必要な体制や施設の増強が必要になる。 ・平成27年2月、環境省から「南アルプスは世界自然遺産候補地としての可能性は認められなかった」という調査結果が示され、平成28年6月、3県10市町村で構成する「南アルプス世界遺産登録推進協議会」はユネスコエコパーク・ジオパークを推進する組織として「南アルプス自然環境保全活用連携協議会」に移行した。

4 評価結果(後期5箇年)

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価) (2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<p>■ 計画どおり取り組めた</p> <p><input type="checkbox"/> おおむね計画どおり</p> <p><input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった</p> <p><input type="checkbox"/> 達成できなかった</p>	<p>■ 進んだ</p> <p><input type="checkbox"/> ある程度進んだ</p> <p><input type="checkbox"/> あまり進まなかった</p> <p><input type="checkbox"/> 進まなかった</p>
--	---

5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

【評価結果の理由】

○ 価値が見出された地域資源の数、地域資産を知っている市民の割合ともに目標値を上回っている。活用できる状態の整った地域資産の数についても、順調に積み上がってきている。

<地域資源の発見>

- 美術博物館(自然・人文・美術)、歴史研究所(歴史)、生涯学習・スポーツ課(考古、文化財)が中心となり、地域内の研究者、研究団体等と連携し、調査研究活動を行い、新たな地域資源の発見を進めている。
- 美術博物館開設以来の菱田春草研究の蓄積が基となり、生誕140周年となった26年度に未完の作「雨中美人」と大量のスケッチ類を発見でき、記念展で公開できた。

<地域資源の資産化>

- 昭和50年代から継続実施してきた発掘調査と学術研究の成果、地権者及び地域住民の理解・協力が基礎となり、平成26年3月に恒川官衙遺跡(奈良・平安時代の古代伊那郡の役所関連遺構からなる遺跡)の国史跡指定が実現した。
- 当地方が古墳時代において、軍事、運輸上から重要であった馬の生産・管理に携わり、中央政権との強いつながりを持っていたことを示す前方後円墳をはじめとする飯田古墳群13基について、国史跡指定が実現した。
- 旧飯田町の風情を残す仲ノ町から下馬場町に至るエリアにおいて、旧飯田測候所、下伊那教育会館、黒須家の門等の5棟の国登録有形文化財登録が実現するとともに、地元地域及び市民組織と連携して旧飯田測候所の建物及び敷地一帯の整備、春草生誕地の公園整備を実施した。
- 上記以外に7件(うち1件は追加)の飯田市文化財の指定、3件県文化財指定が実現した。
- 柳田國男館が国登録有形文化財に登録申請された。
- 平成26年6月に南アルプスがユネスコエコパークへの登録が実現した。
- 平成28年12月、日本ジオパーク委員会の再審査の結果、南アルプスジオパーク(中央構造線エリア)は引き続き認定となった。
- 歴史研究所では、設立時からの重点事業である市誌編纂事業において、旧飯田町と旧上飯田町の単位地域史としての「飯田・上飯田の歴史」(上下巻)を24年度に発刊した。また、旧飯田測候所及び旧南信濃・下久堅・鼎・千代・川路役場の非現用文書の整理・保存措置を講ずるとともに、地域史研究団体と協働して史料調査を進め目録作成を行った。
- 美術博物館、歴史研究所、生涯学習・スポーツ課では、調査研究実績に基づいて各種報告書等を刊行し、各資産が持つ価値の顕在化と周知を行っている。

<地域資産の情報発信>

- 美術博物館、歴史研究所等では、ホームページ、機関紙、年報・紀要等を通じ、また、各種情報媒体を活用し、地域資産情報を適時発信してきた。
- 生涯学習・スポーツ課では、24年度に文化財関連情報を広く発信する「文化財保護いいだ」のサイトを立ち上げるとともに、24年度から広報いいだに文化財紹介コーナーを設けて様々な文化財を紹介してきた。

6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

<地域資源の発見・資産化>

- 高速交通網時代の地域変化ばうに備えて、守るべきものを守り、地域の個性や魅力をより高めるために、地域内外の研究団体や専門機関と連携した調査研究活動を行って地域資源の発見を進めるとともに、調査研究成果を基にした刊行物の発刊やデータベース化、文化財指定等による地域資源の資産化にさらに取り組む。
- リニア時代を見据え、当面、「交通と文化」、「飯田城下町」、「遠山郷の資源」に加え、新たに「郷土の偉人」をテーマにした地域資源の調査を重点的に進める。
- 国史跡となった恒川官衙遺跡は引き続き遺跡の全体解明のための保存目的調査と学術研究を進め、追加指定を進めるとともに、飯田古墳群についても国史跡の追加指定に向けて段階的な取組みを進める。
- 市の指定文化財の中で特に重要性の高いものについては、資産価値をさらに高めるために、国、県の文化財指定に向けて取り組む。
- 小さな世界都市に向けて、菱田春草を中心とする日本画の所蔵作品の充実を図る。
- 新たに発見され増加する地域資源の資産化を進めるとともに、必要な体制や施設の整備に取り組む。
- 未整理の役所文書の整理・保存と、民間の文書等の保存継承支援を行う。
- 新聞・郷土雑誌等の地域の出版物のデータベース化に取り組む。

<地域資産の情報発信>

- 施策の主管・関係課が開設しているホームページの充実を図るとともに、各種情報媒体を用いた効果的な情報発信を進める。
- 美術博物館や考古施設が蓄積してきた調査研究の成果を踏まえた常設展示の更新やプラネタリウムのオリジナル番組の充実、当地域の象徴的な文化財である国史跡の飯田古墳群や恒川官衙遺跡、国名勝の天龍峽等の紹介に取組み、市民や飯田を訪れる人達に今まで以上に飯田らしさをアピールしていく。
- 新聞等、地域の出版物について情報発信し活用する。
- 自然・歴史・文化に関わる寄贈された資料について包括的に整理し、情報発信していく。
- ユネスコエコパーク・ジオパークの情報発信と活用を進める。